

## 水防災に関する研究について

～ TNTファシリテータとしての関わりから～

名古屋大学 戸田祐嗣

## TNT 1年目(平成18年度)

- 被害想定グループのファシリテータとして
  - TNTにおける被害想定の意味に苦しむ
  - 想定シナリオ下での被害のリストアップ
  - 「被害想定」、「情報共有」、「避難・救助」の相互の関係までは及ばず
  - 広域避難に関するトリガーを誰が、何時引くのが大きな課題として残る

## TNT 2年目(平成19年度)

- 危機管理行動計画(案)に関する議論が始まる
  - 討論型図上訓練：各機関のグレーゾーンの明確化
  - 情報共有サイトのあり方
  - 災害発生前から合同現地対策本部の前身となるものが必要 情報共有本部

## TNT 3年目(平成20年度)

- 危機管理行動計画(第2版)に関する議論が始まる
  - 気象庁からの情報提供(スーパー伊勢湾台風クラスなら1.5日前からかなりの精度で進路予想可能)トリガーを引くタイミング
  - 通常の水防災体制と本体制との使い分けや共存,それに向けた法体制整備の必要性に関する議論等が始まる 実効性に向けた議論へ

## 水防災に関する(研究)課題

～ ファシリテータとして欲しかった情報～

- 被害予測・応急復旧に係る課題  
台風進路、高潮予報、破堤、浸水域に関する予測技術  
上記解析とインフラ被害(電気、ガス、水道、交通網)の複合シミュレーション  
危険物、衛生関係汚染の被害シミュレーション
- 広域避難に係る課題  
避難行動シミュレーション  
超巨大台風接近時の交通計画  
自主避難を促すための社会心理学的研究  
広域避難が空振りしても納得できる社会システムに関する研究
- 法整備・責任体制に係る課題  
情報共有本部と災害対策本部の法的関係  
広域避難のトリガーを引くための法整備と責任体制